



謎の超笑力をもつ大魔王が、あなたに贈る不思議なムダ話

発行：トラベル・ミトラ・ジャパン (E-mail : daimao@travelmitra.jp)

ぼん子画

(570-0041) 大阪市北区天神橋 1-18-25 第3マツイ・ビル 201 TEL : 06-6354-3011

「スピリチュアル・ツーリズム⑥」 日本人の誇り

このシリーズも最終章になった。

もう一カ所お勧めしたい場所がある。シドニー・ユダヤ人博物館である。

一階には、『アンネの日記』の作者アンネ・フランクの生涯を中心に展示がされている。第二次大戦中のユダヤ人狩りから逃れるため隠れ家に潜んでいたときの日記である。

1944年8月フランク一家は隠れ家で逮捕された。この逮捕は誰かの“密告”によって為された。

ところが、新説では“偶然”の可能性がでてきた。「偽造配給券の家宅捜査だったナチス親衛隊情報部 (SD) が偶然に家族をみつけた」(毎日新聞 2016-12-19) 同年4月隠れ家で配給券偽造により二人が逮捕されている。その余波を受けたのではないか、という説である。

密告したか、偶然かが問題ではなく、逮捕から一年もたたないうちにベルゲン・ベルゼン強制収容所で亡くなった事実のほうが重い。

ココロの沈黙とは、静寂、神の響きを聴くことである。しかしながら、内なるココロの沈黙は、しばしば歴史的事実によって破られる。それによって、コトバの沈黙はさらに続く。

二階に上がってみよう。少しはココロが晴れるかもしれない。

ヨーロッパから逃れてきたユダヤ難民は米国に逃れたと思っていた。オーストラリアにも多くの難民がやって来たことを、初めて知った。

展示ガラス・ケースの中に、輝くものを見つけた。どういうわけか輝いて見えた。査証である。そこに「杉原千畝」の署名があった。

彼は外交官で、第二次世界大戦中リトアニアのカウナス領事館に赴任していた。ナチスの迫害から逃れてきた難民たちに約六千人の命のビザ (通過査証) を発行した。その一部が日本を経由してオーストラリアに着いた。

アウシュビッツを訪れた人からお土産をもらったことがある。「杉原千畝チョコレート」である。一枚の板チョコだが、微妙な味がした。たとえば、“ヒューマンな味”、“プライドの味”といえる。

あれは味覚であったが、今回は視覚で感じた。

それを見つけたとたんに空腹が襲ってきた。すでに午後二時半。館内の小さなレストランで軽食を摂った。重苦しさと空腹から解放された。

日本人としての“誇り”を再発見したい方は、ぜひ訪れて下さい。

再度言うが、スピリチュアル・ツーリズムは、ダーク・ツーリズムの要素が必要である。プラウド (Proud) を辞書でひくと、誇りとする、光栄とする、とある。杉原千畝は日本人の良心からすると“誇り”である。しかし、プラウドには、高慢な、えらがる、などの意味がある。世界はこの二面性によって成り立っている。

スピリチュアル・オタク (愛好者) に陥ると、世界は理解できない。世界を理解できない者は、「自己」を理解できない。

そろそろ、オーストラリア・ツーリズムも終わりに近づいてきた。当初の予定では、日本仏教寺院、モスク、ヒンドゥー寺院を訪問する予定であった。ヒンドゥー寺院は訪問できた。神聖な雰囲気があったが、交通不便のため一般向きではない。

岩さんの自宅近くに仏教寺院がある。仏壇があるのに、お母さんの葬式をお寺に頼まなかった。檀家制度に組み込まれるのを嫌ったのか、確かな理由は分からない。そもそも岩さんは「宗教」に興味がない。

彼の妻はイスラム教徒だが、モスクに数回しか行ったことがない。日本在住の時も今もハラル食品を食べていない。

岩さん夫婦は“不信心者”なのである。ところが、岩さんはわが輩に宗教について問いかけてくる。

(岩さん、何かプロブレムでもあるの?)

どうやら、娘さんがキリスト教の一派に関心を示し始めたらしい。安易にのめり込むことを警戒している。心配で心配でたまらないが、二人の対話はかみ合わない。

娘さんはイランの母親の実家に行っていて会えなかったが、岩さんには「一派」や「宗教」ではなく、自己の本質 (スピリチュリティ) について考えてほしいとアドバイスした。

それには他家を訪れ、似ているところ、似ていないところを“比較”してみる。それが第一歩である。スピリチュアル・ツーリズムこそ、正にその第一歩である。

大魔王流ツーリズムの目的はほぼ達成した。岩さんの手助けなくしてはできなかった。“印友”とインドに感謝!